

# 日陶科学株式会社を創設、発展 90歳現役の山田光彦会長に聞く

## グローバル人材育成 ウクライナ支援に意欲



「人との出会いが仕事のヒントに」と語る山田光彦会長

90歳にして活躍中の現役会社会長がいる。名古屋市東区徳川2、科学・保健機器製造販売の「日陶科学株式会社」など2社を運営する山田光彦会長で、理科教育や産業技術教育、国際交流などを含めて幅広い分野で活躍している。JICA（国際協力機構）の技術研修や持続可能な開発のための教育を目指す「ESD コンソーシアム愛知」などの組織にも積極的に関わってきた。悲惨な戦争を体験し、ロシアのウクライナ侵攻にも心を痛め、現地関係者への寄付などを検討している。山田会長の平和への想い、エネルギー活動の原点を聞いた。

（聞き手は中原道文・編集顧問）

**中原** 77回目の終戦記念日。戦争体験を聞かせてください。

**山田** 小学校高学年の時は空襲警報が鳴るたびに早く帰宅できたので喜んでいました。6年生のころ、米国機の名古屋襲撃を、花火のようだと瀬戸の山から見下ろしていました。終戦は中学1年の時で、数か月前に先生が日本は負けるような話をしたので、家で話したら親父にひどく叱られました。洗脳された軍国少年で、少年航空兵への志願も考えたこともありました。2年ほど上の先輩は実際に志願して特攻隊員となり命を落としましたが、その時は名誉なことだと思っていましたね。

——戦後、考えが変わりましたか。

**山田** 家や親せきなどに被害はなかったのですが、12歳上の兄がラバウルから生還し、現地では戦うどころではなく、山の中を逃げ回っていたという話を聞き、戦争の悲惨さ、愚かさを痛感しました。

——ロシアのウクライナ侵攻から半年。戦争

をどう見えていますか。

**山田** 人を殺す戦争は許されません。戦争中、私も警報で夜も眠れなかったですが、ウクライナでは今それが日常だと思います。出口が見えませんが、米国が強く出て、プーチンロシア大統領が反省し、一時でもいいからまずは停戦に持ち込めないか、と考えています。

——ウクライナ支援も検討中とか。

**山田** はい。知人に「ウクライナを是非支援したい」と申しましたら、話が次々と進み、「ESDコンソーシアム愛知」と「JICA『産業技術教育』研修」の関係者が集うこととなりました。既に100万円ほどは目途がつき、マスクや医療検査器具の寄付を含めて支援方法を皆さんと考えています。

### 特許の「土練器」で発展

——会社も設立61年。“還暦”までの道のりは。

**山田** 会社を設立して4年ほど経ったある展示会で、粘土で花瓶づくりの実演を頼まれました



た。ある時、見知らぬ紳士が「俺にもできるか」と聞いてきたので、「私が教えられる」と答えました。実家は製陶業で、コツは分かっていたので教えて、作品を焼いて、送りました。その方が文部省教科書作りの担当でもあり、仕事が広がりました。子供たちが使い、余った粘土を再利用するための「土練器」を苦労して作り、これが予想を超える売り上げを記録し、その後、土練器や自動乳鉢など 30 ほどの特許も取り、会社はおかげさまで発展しました。

また、株式会社環境公害センターは、1973 年に環境公害に係わる測定分析会社として設立し約 50 年になります。今日まで、測定分析・環境アセスメント・自然環境調査等、官公庁や学校、会社等の顧客ニーズに応じてきました。

#### ——JICA 研修に係わったきっかけは。

**山田** 1990 年代後半から、来日された外国の方に、伝統工芸の七宝焼きを教える機会が度々ありました。2005 年には、愛知万博の瀬戸会場で、銀粘土による装飾品を、来場の方に実際に制作していただきました。その後、これらの伝統工芸技術を JICA 産業技術教育研修で来日されている研修員の方々に、制作体験を行っていただく機会を得ました。このような経験が、国際協力に役立てば、という想いに繋がっています。

この工芸制作イベントは、現在トヨタ産業技術記念館の週末ワークショップ「モノづくりの体験」で引き続き開催されており、多くの方に楽しんでいただいています。

## ESD コンソーシアム愛知とは

——「ESD コンソーシアム愛知」に参加した経緯は。

**山田** この組織は、2015 年度に文部科学省ユネスコ活動費補助金「グローバル人材の育成に向けた ESD の推進事業」によって中部大学が中心となって設立されました。初年度から、この組織の構成員として参加しています。毎年、



技術研修中の山田会長(左)の講師の娘さん(右端エプロン姿)

愛知県内のユネスコスクールの ESD・SDG s 活動成果発表会が催されており、参加させていただいています。この組織は、愛知県の ESD・SDG s 活動を代表していて、内外から高い評価を受けています。私も参加していることに誇りを感じ、今後も継続されていくことを期待しています。(ESD = Education for Sustainable Development = 持続可能な開発のための教育)

#### ——今後の抱負を。

**山田** まず、健康な老人でいたいですね。運動も大事ですが、私は製品の開発などに頭を使っていれば健康を維持できるのではないかと、と思っています。ユネスコスクールの発表会などはいいい刺激を受けて、アイデアが沸いてきます。薬剤師の次女がケアマネージャーとしてやっているのを見て、老人に様々な介護機器を紹介できないかと考えて、現在新規事業を進めています。人との出会い、話を聞くことが、仕事のヒント、“健康老人”への秘訣になっていますね。

——ますますの健康とご活躍を祈っております。

**山田 光彦** 1932 年 5 月、愛知県瀬戸市生まれ。現在の瀬戸工科高校(旧瀬戸窯業高校)卒業、科学機器製造会社入社。独立して 1961 年、「日陶科学株式会社」を創立。1967 年理化学磁器に一般科学機器を加えた理科学機器の製作・販売。1972 年医療・保健機器製作・販売。1979 年東京支店設立により全国代理店制度に展開。1996 年銀粘土販売を中心とする工芸部設立。2002 年環境測定機器企画・開発の研究室設立。「日陶科学株式会社」「株式会社環境公害センター」の会長